

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																						
専門学校札幌デザイナー学院		平成1年12月28日	澁谷 俊彦		〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-272-2800																						
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																						
学校法人北海道安達学園		平成1年11月28日	安達 保敏		〒060-0001 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-205-7600																						
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																					
文化・教養	文化教養専門課程	総合デザイン学科グラフィックWebフォト専攻			○	—																					
学科の目的	ベーシックデザインから始まり、基礎デッサン、カラープランニングなどで基礎力を付け、現場に即した専攻授業で、実践力を育成。																										
認定年月日	平成26年03月31日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	昼	1,700	200	0	1,716	0	0																				
1,916時間																											
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
360人の内数	53人	2人	7人	5人	12人																						
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各年度(1/2)、各期(前/後)に期末テスト、レポート課題を実施。また2年間の集大成として卒業論文、卒業制作を実施。出席日数、授業態度を平常点(最大15点)として加味し点数化し、各科目ごとに5段階A(100～80)・B(79～70)・C(69～50)・D(単位認定)・E(49～)の成績評価を行う																						
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏季:7月下旬から8月下旬まで ■冬季:12月下旬から1月下旬まで ■学年末:2月下旬から4月初旬まで			卒業・進級条件	・出席率90%以上 ・単位修得率85%以上 ・卒業制作の完成 ・学費の完納																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任による生活指導及び保護者との連携強化を行う			課外活動	■課外活動の種類 コンペなどへ自主的参加  ■サークル活動: 無																						
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) セブテーニAC、アイ・エヌ・ジー、北海道エネルギー、セガ札幌スタジオ、HBC フレックス、博報堂プロダクツデザインスタジオ、クレイティブ			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)																						
	■就職指導内容 ホームルームの授業などで、就職に対する意識づけ、業界就職に対する正しい認識を指導(接遇マナー演習、面接練習、業界研究会、履歴書の書き方指導等)				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ビジネス能力検定</td> <td>3</td> <td>11</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	ビジネス能力検定	3	11	10												
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																								
ビジネス能力検定	3	11	10																								
	■卒業者数 22 人 ■就職希望者数 17 人 ■就職者数 17 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 77 %			※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																							
	■その他 ・進学者数: 〇人			■自由記述欄																							
中途退学の現状	(令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報) ■中途退学者 4名 ■中退率 7.1% 令和3年4月1日時点において、在学者56名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者52名(令和4年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 学習意欲低下、健康上の理由、進路変更、方向性の違い、家庭の事情、人間関係  ■中退防止・中退者支援のための取組 担任による個別面談の実施、教職員同士の情報共有、カウンセリング、転専攻、転学科の実施。学科担当教員が、日頃より学生とコミュニケーションを密にする。																										

経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有</p> <p>※有の場合、制度内容を記入 奨学生制度(試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生)、AO特待生入学、縁故優遇制度、語学優遇制度、在校生表彰制度</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 給付対象外</p> <p>※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)</p>
当該学科のホームページURL	<p><a href="https://www.sdg.ac.jp/gwp/">https://www.sdg.ac.jp/gwp/</a></p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

総合デザイン学科教育内容

- ① ベーシックデザイン、基礎デッサン、カラープランニング、基礎CGは必修科目で、基礎力を育成
- ② 専攻授業で即戦力を養成するカリキュラム
- ③ 視覚伝達論やデザイン論で、幅広い教養科目
- ④ 就職に向け、ソーシャルコミュニケーションや就職対策でビジネス能力検定やマナー、面接などを学ぶ

上記の教育内容を企業等との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能等を反映するため、企業等の意見を十分に活かし改善等計って行く

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会の位置づけとして、当委員会の審議を通して、業界が求める人材、および専門的スキルを持った社会人教育環境実現の機能を持つものとする。その審議を通じ、効果的に専門教育に反映できるよう業界の第一線に身を置く学校外委員の客観的見地を有効かつ最大限に活用することで、最新の業界情勢を見据えたカリキュラム(授業内容・インターンシップ・就職セミナー)を構築できるよう、積極的意見を交換するデザイン業界と教育現場を結ぶ委員会として機能するカンファレンスである。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	①
岡田 善敬	札幌大同印刷株式会社	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	③
増永 佳奈	インテリアコーディネーター協会 会長	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	③
木下 直樹	KIC株式会社 部長	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	③
澁谷 俊彦	専門学校札幌デザイナー学院	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	
立岡 好人	専門学校札幌デザイナー学院	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	
木村 馨	専門学校札幌デザイナー学院	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	
東出 圭介	専門学校札幌デザイナー学院	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	
高島 幸直	専門学校札幌デザイナー学院	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間開催数:年2回 開催予定時期:毎年9月 12月

(開催日時(実績))

令和3年度 第一回 令和 4年 1月 27日 17時 00分～18時 00分

令和3年度 第二回 令和 4年 3月 4日 11時 00分～12時 00分

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

コロナ禍での業界においてはwebデザインの業務が増えており、業界のwebへの以降がより一層高まった。印刷物においてはDM等、業務としては意外に多く存在しているため、媒体に拘らずデザインができる人材が求められている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

課題制作・打ち合わせ・発表を通し実作業の経験を繰り返し習得させる。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

・カリキュラム・授業内容の編成会議を年4回、教育課程編成会議の意見を踏まえた上で、授業にかかわるすべての講師を参集し講師会という形で行い授業内容の改善に活かしている。  
・年2回の作品審査会を行い、個々の学生への評価を頂戴することとする。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
2年専攻グラフィックデザインⅢ	企画・制作を基本に、企画に対しての市場調査、更に販売戦略の考え方を実践し、これからの広告や新しい媒体を考え、デザインの在り方を学ぶ。	株式会社DAVIS 田代 全克
1年専攻グラフィックデザインⅡ	写真・イラストを使った実習授業を行い、より実践的な広告制作のノウハウからブランディングなどディレクションについて学ぶ	アートディレクター 石上 光太郎
web	Illustrator・Photoshopを用いたwebサイトのデザイン制作から、デザインにおける視覚伝達の知識とスキルを身につける。	アートディレクター きたむら 千鶴

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員規則の教員研修に基づき、教員は実践的かつ専門的な知識・技術・技能及び指導力の修得・向上を図ることを目的とし、年2回以上の研修計画を策定し、校外で必要な研修機会を設けるものとする。  
年2回、定期的に学科毎に開催する業界研修会において関連企業の方を招き、情報収集や情報共有を行い業界の最新情報を把握することで、教員の資質向上へ活かしている。また指導力修得、向上のための各種研修会に参加するものとする。

(2)研修等の実績(令和3年度)

①専攻分野における実務に関する研修等(研修名、日程、連携企業名、内容を記載)

「ひらめくデザイン」10月1日18時30分~20時 大同印刷株式会社 アートディレクター・グラフィックデザイナー 岡田敬善さん  
札幌市民交流プラザ 1F 図書情報館にてアートディレクター・グラフィックデザイナー 岡田敬善さんのこれまでのお仕事についての紹介やデザイン制作において、ひらめきやデザイン思考について、独自のワークフローについてなどの質疑応答を交えた講演会。

②指導力の修得・向上のための研修等(研修名、日程、連携企業名、内容を記載)

「SADC コンペティション&アワード2020-2021」12月18日-19日 札幌アートディレクターズクラブ(Sapporo ADC)  
札幌アートディレクターズクラブのコンペティション&アワードは北海道のアートディレクター及びグラフィックデザイナーにより制作されたデザイン制作物の公開審査を行い、賞の選定及び授賞式を行うイベントである。

(3)研修等の計画(令和4年度)

①専攻分野における実務に関する研修等(研修名、日程、連携企業名、内容を記載)

「SADC コンペティション&アワード2022」10月8日-9日 札幌アートディレクターズクラブ(Sapporo ADC)  
札幌アートディレクターズクラブのコンペティション&アワードは北海道のアートディレクター及びグラフィックデザイナーにより制作されたデザイン制作物の公開審査を行い、賞の選定及び授賞式を行うイベントである。

②指導力の修得・向上のための研修等(研修名、日程、連携企業名、内容を記載)

令和4年度第1回「職業実践専門課程」に係る研修会 8月2日  
講師:山谷 敬三郎 氏(北翔大学・北翔大学短期大学部 学長・教授)  
演題:『コーチングの理論とその活用について』

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に関係の深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する

## (2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特色は適正か 1-3学校の将来構想を抱いているか
(2)学校運営	2-1運営方針は定められているか 2-2事業計画は定められているか 2-3運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5意思決定システムは確立されているか 2-6情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導體制はあるか
(4)学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られている 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	7-1学生募集活動は、適正に行われているか 7-2学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	8-1中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-2予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-3財務について会計監査が適正に行われているか 8-4財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	9-1法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	11-1グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会実施の意見として、自己評価に基づき特に学修成果、学生支援を重点的に意識をしながら教育活動を実施する。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	企業等委員
松倉 大樹	株式会社きしだ Studio BACU	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	企業等委員
山田 芳之	株式会社宿屋ネットワーク	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	企業等委員
一條 實	・株式会社カメラのカネミチ	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	企業等委員
本間 裕也	ジョイフルエーカー	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	企業等委員 企業等委員 姉妹校卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(公表方法:ホームページ 公表時期:令和4年7月)

[https://www.sdg.ac.jp/top/wp-content/uploads/2022/07/2021SDG\\_SelfAssessment\\_SchoolOfficialEvaluation.pdf](https://www.sdg.ac.jp/top/wp-content/uploads/2022/07/2021SDG_SelfAssessment_SchoolOfficialEvaluation.pdf)

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
(2) 各学科等の教育	・定員 ・各学科 教育理念・教育方針・教育内容(カリキュラム・目指す資格・行事)
(3) 教職員	・教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介(インターンシップ等) ・就職支援の取り組み(キャリアセンター)
(5) 様々な教育活動・教育環境	・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
(6) 学生の生活支援	・学生生活サポート
(7) 学生納付金・修学支援	・学費 ・学費サポートシステム
(8) 学校の財務	・消費収支計算書
(9) 学校評価	・自己点検自己評価 ・学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	・国際交流・連携
(11) その他	・災害時非常時緊急時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法:ホームページ

<https://www.sdg.ac.jp/information/>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程総合デザイン学科グラフィックWebフォト専攻) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			視覚伝達論	バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションの有り方の違いなど、ビジュアルを主とするコミュニケーションの方法論を学ぶ。	1前期	34	2	○			○		○		
○			ソーシャルコミュニケーション	社会人としての基本的なマナーやビジネス文書を学習。ビジネス能力検定のための学習も行う。	1前期	34	2	○			○		○		
○			ベーシックデザイン	デザインに必要な平面・空間構成の方法論を学び、あらゆるデザインワークに対応できるように基礎を学習する。	1前期	136	8			○	○		○		
○			基礎デッサン	デッサンの基礎の習得から構図やプロポジションなど、物の見方・影の捉え方について学ぶ。	1前期	68	4			○	○			○	
○			カラープラン	道具の正しい使い方を演習を通じて習得し、平塗り、混色、イメージ配色へと発展させていく。	1前期	68	4			○	○		○		
○			基礎CG	イラストレーターやフォトショップのソフトを使用し、デザイナーに必要な基礎知識や技術を身につける。	1前期	68	4			○	○		○		
	○		専攻グラフィックデザイン	印刷に関わる基礎から始まり、実際に印刷の工程までを実体験し、また広告の概念から制作を学習する。	1前期	102	6			○	○		○	○	○
合計			8科目			510単位時間(30単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。



授業科目等の概要

(文化教養専門課程総合デザイン学科グラフィックWebフォト専攻) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			視覚伝達論	バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションの有り方の違いなど、ビジュアルを主とするコミュニケーションの方法論を学ぶ。	1後期	32	2	○			○		○		
○			ソーシャルコミュニケーション	社会人としての基本的なマナーやビジネス文書を学習。ビジネス能力検定のための学習も行う。	1後期	32	2	○			○		○		
○			ベーシックデザイン	デザインに必要な平面・空間構成の方法論を学び、あらゆるデザインワークに対応できるように基礎を学習する。	1後期	64	4			○	○		○		
○			基礎デッサン	デッサンの基礎の習得から構図やプロポーションなど、物の見方・影の捉え方について学ぶ。	1後期	32	2			○	○			○	
○			カラープラン	道具の正しい使い方を演習を通じて習得し、平塗り、混色、イメージ配色へと発展させていく。	1後期	32	2			○	○		○		
○			基礎CG	イラストレーターやフォトショップのソフトを使用し、デザイナーに必要な基礎知識や技術を身につける。	1後期	64	4			○	○		○		
	○		グラフィックデザイン専攻	印刷に関わる基礎から始まり、実際に印刷の工程までを実体験し、また広告の概念から制作を学習する。	1後期	128	8			○			○	○	○
	○		フォト	広告における写真の基礎知識習得から撮影実習を行い、実践的な知識と技術を習得する。	1後期	32	2			○			○	○	
	○		web	XDにおけるwebサイトのディレクションを学び、Illustrator・Photoshopを使ったデザイン制作のノウハウを身につける。	1後期	32	2			○			○	○	○
合計					9科目		448単位時間(28単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。



授業科目等の概要

(文化教養専門課程総合デザイン学科グラフィックWebフォト専攻) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			デザイン論	日本のデザインの始まりから、過去、現在を交差しデザインの考え方、手法、こだわりなどを検証し、市場調査や販売戦略の事例や新しい考え方を紹介しながら、媒体の在り方を考えて行く。	2前期	34	2	○			○		○		
○			就職対策	実践に即して、企業訪問、面接試験、就職用ポートフォリオ作成の指導を行う。	2前期	34	2	○			○		○		
○			ビジュアルデザイン	視覚的表現の中で、思いをイラスト化したり、マーク化や数値を分かり易くグラフ化し、より分かり易い視覚化を学ぶ。	2前期	##	6			○	○		○		
○			CG I	実践作業を中心にデザイナーとしての、より高いスキルと意識を身につける。イラストレーターやフォトショップの復習・応用。	2前期	68	4			○	○			○	
○			CG II	実践作業を中心にデザイナーとしての、より高いスキルと意識を身につける。イラストレーターやフォトショップの復習・応用。	2前期	68	4			○	○		○	○	
○			スキルアップ	表現技術や表現方法を反復し、作品をより良く見せるためのプレゼンテーションを学ぶ。	2前期	34	2			○	○		○		○
	○		グラフィックデザイン専攻	企画・制作を基本に、企画に対しての市場調査、更に販売戦略の考え方を実践し、これからの広告や新しい媒体を考え、デザインの在り方を学ぶ。	2前期	##	10			○	○		○	○	○
合計				7科目											510単位時間(30単位)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程総合デザイン学科グラフィックWebフォト専攻) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			卒業制作・企画	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	64	4			○	○		○	○	
○			卒業制作・制作	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	96	6			○	○		○	○	
○			卒業制作・演習	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	##	10			○	○		○	○	○
○			卒業制作・作品	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	96	6			○	○		○	○	○
○			卒業制作・スキルアップ	卒業制作の作品作りだけではなく、就職用のポートフォリオを充実させ、何時でも就職活動出来るよに作品制作。	2後期	32	2			○	○		○	○	
合計					5科目	448単位時間(					28単位)				

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式4)

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和4年10月1日※1  
(前回公表年月日: 令和3年10月1日)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
専門学校札幌デザイナー学院	平成1年12月28日	澁谷 俊彦	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-272-2800																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人北海道安達学園	平成1年11月28日	安達 保敏	〒060-0001 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-205-7600																								
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																						
文化・教養	文化教養専門課程	総合デザイン学科イラスト・キャラクター専攻		○	—																						
学科の目的	イラストレーション・キャラクターデザイン専攻では、実技トレーニング中心の学習で幅広いイラストレーションの技法の基礎から応用までを修得。ベーシックデザインから始まり、オリジナリティを尊重しつつも、業界が求めるスキルまで高める。またあらゆるフィールドでの活躍を視野に入れた教育内容(コミュニケーション、マナーなど)は社会人としての自覚も形成するものである。																										
認定年月日	平成26年3月31日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	昼	1,700	200	0	1,716	0	0																				
1,916時間																											
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
360人の内数	84人	0人	2人	6人	8人																						
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各年度(1/2)、各期(前/後)に期末テスト、レポート課題を実施。また2年間の集大成として卒業論文、卒業制作を実施。出席日数、授業態度を平常点(最大15点)として加味し点数化し、各科目ごとに5段階A(100～80)・B(79～70)・C(69～50)・D(単位認定)・E(49～)の成績評価を行う																							
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏季:7月下旬から8月下旬まで ■冬季:12月下旬から1月下旬まで ■学年末:2月下旬から4月初旬まで		卒業・進級条件	・出席率90%以上 ・単位修得率85%以上 ・卒業制作の完成 ・学費の完納																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任による生活指導及び保護者との連携強化を行う		課外活動	■課外活動の種類 コンペなどへ自主的参加  ■サークル活動: 無																							
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) セガ札幌スタジオ、クレイテプス、ゲームドウ、エクステデザイン、ソニー・ミュージックソリューションズ、放送アートセンター、他 ■就職指導内容 ホームルームの授業などで、就職に対する意識づけ、業界就職に対する正しい認識を指導(接遇マナー演習、面接練習、業界研究会、履歴書の書き方指導等) ■卒業生数 29 人 ■就職希望者数 16 人 ■就職者数 16 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 55 % ■その他 ・進学者数: 0人  (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"><thead><tr><th>資格・検定名</th><th>種</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr></thead><tbody><tr><td>ビジネス検定□</td><td>③</td><td>22</td><td>20</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)  ■自由記述欄				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ビジネス検定□	③	22	20												
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
ビジネス検定□	③	22	20																								
中途退学の現状	■中途退学者 8名 令和3年4月1日時点において、在学者82名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者74名(令和4年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 学習意欲低下、健康上の理由、進路変更、方向性の違い、家庭の事情、人間関係  ■中退防止・中退者支援のための取組 担任による個別面談の実施、教職員同士の情報共有、カウンセリング、転専攻、転学科の実施。学科担当教員が、日頃より学生とコミュニケーションを密にする。		■中退率 9.8%																								

経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有</p> <p>※有の場合、制度内容を記入 奨学生制度(試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生)、AO特待生入学、縁故優遇制度、語学優遇制度、在校生表彰制度</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 給付対象外</p> <p>※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)</p>
当該学科のホームページURL	<p><a href="https://www.sdg.ac.jp/ic/">https://www.sdg.ac.jp/ic/</a></p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

総合デザイン学科教育内容

- ① ベーシックデザイン、基礎デッサン、カラープランニング、基礎CGは必修科目で、基礎力を育成
- ② 専攻授業で即戦力を養成するカリキュラム
- ③ 視覚伝達論やデザイン論で、幅広い教養科目
- ④ 就職に向け、ソーシャルコミュニケーションや就職対策でビジネス能力検定やマナー、面接などを学ぶ

上記の教育内容を企業等との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能等を反映するため、企業等の意見を十分に活かし改善等計って行く

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会の位置づけとして、当委員会の審議を通して、業界が求める人材、および専門的スキルを持った社会人教育環境実現の機能を持つものとする。その審議を通じ、効果的に専門教育に反映できるよう業界の第一線に身を置く学校外委員の客観的見地を有効かつ最大限に活用することで、最新の業界情勢を見据えたカリキュラム(授業内容・インターンシップ・就職セミナー)を構築できるよう、積極的意見を交換するデザイン業界と教育現場を結ぶ委員会として機能するカンファレンスである。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	①
岡田 善敬	札幌大同印刷株式会社	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	③
増永 佳奈	インテリアコーディネーター協会 会長	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	③
木下 直樹	KIC株式会社 部長	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	③
澁谷 俊彦	専門学校札幌デザイナー学院	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	
立岡 好人	専門学校札幌デザイナー学院	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	
木村 馨	専門学校札幌デザイナー学院	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	
東出 圭介	専門学校札幌デザイナー学院	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	
高島 幸直	専門学校札幌デザイナー学院	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間開催数:年2回 開催予定時期:毎年9月 12月

(開催日時(実績))

令和3年度 第一回 令和 4年 1月 27日 16時 30分～ 17時 30分  
 令和3年度 第二回 令和 4年 3月 4日 11時 00分～ 12時 00分

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

1. [第一回]卒業制作展を終えての学生全体評価と今後のカリキュラム等への反映  
 卒制展は全体として作品のクオリティは高かった。専攻を超えた多様性が見られた。  
 多様性が増えるのは良いが、中途半端にならぬ様バランスが必要。

コロナ禍でコミュニケーション能力不足が懸念される為、社会との接点を増やす試みが欲しい。

コラボ授業、チーム制作、企業コラボ等を積極的に行う。

コロナでの業界の変化を把握し、授業展開を考える必要性から

次回現状のカリキュラムと業界が求めている知識、技術の整合性を探る。

2. [第二回]ipad、スマホで描く学生が増加するニーズにあわせて、ipadとClipstudio導入など設備の充実を図る。デジタル慣れた学生が、紙媒体でのサイズ感がわからなくなってきた現状を踏まえ、雑誌編集を通して、サイズ感をつかむ授業を行う。進級制作にポートフォリオづくりを必須とする。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

課題制作・打ち合わせ・発表を通し実作業の経験を繰り返し習得させる。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

・カリキュラム・授業内容の編成会議を年4回、教育課程編成会議の意見を踏まえた上で、授業にかかわるすべての講師を参集し講師会という形で行い授業内容の改善に活かしている。  
・年2回の作品審査会を行い、個々の学生への評価を頂戴することとする。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
デジタルカラープラン	色彩の基本的演習。面積対比コンポジション、グレースケール、三原色からの様々なビジュアルを主とするコミュニケーションの表現方法を知り、自身の表現の幅を広げていく。前期のアナログ教育を元に後期のデジタルカラープランニングを行う。	アートディレクター 北村 千鶴
イラストレーション・キャラクターデザインⅡ	イラストレーションを制作するために必要な画材スキルを学ぶ。また自分に合った画材を探求する。様々なビジュアルを主とするコミュニケーションの表現方法を知り、自身の表現の幅を広げていく。	株式会社ペイントモンスター 伊藤マーティー
イラストレーション・キャラクターデザインⅤ	イラストレーションを通して、設定を元にした世界観の構築を主とし、柔軟な発想からの様々なビジュアルを主とするコミュニケーションの表現方法を知り、自身の表現の幅を広げていく。	株式会社ペイントモンスター 伊藤マーティー

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員規則の教員研修に基づき、教員は実践的かつ専門的な知識・技術・技能及び指導力の修得・向上を図ることを目的とし、年2回以上の研修計画を策定し、校外で必要な研修機会を設けるものとする。  
年2回、定期的に学科毎に開催する業界研修会において関連企業の方を招き、情報収集や情報共有を行い業界の最新情報を把握することで、教員の資質向上へ活かしている。また指導力修得、向上のための各種研修会に参加するものとする。

(2)研修等の実績(令和3年度)

①専攻分野における実務に関する研修等(研修名、日程、連携企業名、内容を記載)

展覧会鑑賞「装飾と空間のはざまに」[プラニスホール]7月13日(火)4講時目(1B/1C)

展覧会鑑賞「富野由悠季の世界展」[北海道立近代美術館]12月2日(木)1Bクラス 15:00～、12月3日(金)1Cクラス 13:20～

②指導力の修得・向上のための研修等(研修名、日程、連携企業名、内容を記載)

北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会主催研修会 前田賢次氏「いま求められている・求めたい教育教育の間で」(2021/8/3)

北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会主催研修会 神田裕子氏「この子ちょっと変わっている・・と感じた時の支援法」(2021/12/2)

(3)研修等の計画(令和4年度)

①専攻分野における実務に関する研修等(研修名、日程、連携企業名、内容を記載)

「バンクシー展」会場:東一丁目劇場(旧北海道四季劇場)の鑑賞(5月9日～6月20日の期間中に各クラスごと)

「フェルメール展」会場:北海道立近代美術館(5月9日～6月20日の期間中に各クラスごと)

「古代エジプト展」会場:北海道立近代美術館(7月19日(火)、7月21日(木))

②指導力の修得・向上のための研修等(研修名、日程、連携企業名、内容を記載)

北海道私立専修学校各種学校連合会主催教員研修 8月 12月予定

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に関係の深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する

## (2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特色は適正か 1-3学校の将来構想を抱いているか
(2)学校運営	2-1運営方針は定められているか 2-2事業計画は定められているか 2-3運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5意思決定システムは確立されているか 2-6情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導體制はあるか
(4)学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られている 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	7-1学生募集活動は、適正に行われているか 7-2学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	8-1中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-2予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-3財務について会計監査が適正に行われているか 8-4財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	9-1法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	11-1グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。



(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会実施の意見として、自己評価に基づき特に学修成果、学生支援を重点的に意識をしながら教育活動を実施する。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	企業等委員
松倉 大樹	株式会社きしだ Studio BACU	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	企業等委員
山田 芳之	株式会社宿屋ネットワーク	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	企業等委員
一條 實	・株式会社カメラのカネミチ	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	企業等委員
本間 裕也	ジョイフルエーカー	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	企業等委員 企業等委員 姉妹校卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(公表方法:ホームページ 公表時期:令和4年7月)

[https://www.sdg.ac.jp/top/wp-content/uploads/2022/07/2021SDG\\_SelfAssessment\\_SchoolOfficialEvaluation.pdf](https://www.sdg.ac.jp/top/wp-content/uploads/2022/07/2021SDG_SelfAssessment_SchoolOfficialEvaluation.pdf)

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
(2) 各学科等の教育	・定員 ・各学科 教育理念・教育方針・教育内容(カリキュラム・目指す資格・行事)
(3) 教職員	・教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介(インターンシップ等) ・就職支援の取り組み(キャリアセンター)
(5) 様々な教育活動・教育環境	・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
(6) 学生の生活支援	・学生生活サポート
(7) 学生納付金・修学支援	・学費 ・学費サポートシステム
(8) 学校の財務	・消費収支計算書
(9) 学校評価	・自己点検自己評価 ・学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	・国際交流・連携
(11) その他	・災害時非常時緊急時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法:ホームページ

<https://www.sdg.ac.jp/information/>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程総合デザイン学科イラスト・キャラクター専攻) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			視覚伝達論	バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションの有り方の違いなど、ビジュアルを主とするコミュニケーションの方法論を学ぶ。	1前期	34	2	○			○		○		
○			ソーシャルコミュニケーション	社会人としての基本的なマナーやビジネス文書を学習。ビジネス能力検定のための学習も行う。	1前期	34	2	○			○		○		
○			ベーシックデザイン	デザインに必要な平面・空間構成の方法論を学び、あらゆるデザインワークに対応できるように基礎を学習する。	1前期	136	8				○	○		○	
○			基礎デッサン	デザインの基礎となる物の観方と描き方を身に付ける。デッサンの基礎の習得から構図やプロポジションなど、物の見方・影の捉え方について学ぶ。	1前期	68	4				○	○			○
○			カラープランニング	実習を通して色彩の基本原理と調合、各分野に広く活用できる「理論に裏付けられた色彩の基本」を学ぶ。	1前期	68	4				○	○		○	
○			基礎DTP	デザインに必要なアプリケーションの基礎を学ぶ。デザインソフト Adobe Illustrator / Adobe Photoshop の基本的操作を学び、CG作品(デザイン・イラストレーション)の制作に必要な基礎知識や技術を身に付ける。	1前期	68	4				○	○		○	
	○		専攻イラストレーションⅠ	基礎技術の習得を中心とし、目的意識の向上を図る。強調と省略・情報収集・探求心の育成。	1前期	34	2				○			○	○
	○		専攻イラストレーションⅡ	イラストレーションを制作するために必要な画材スキルを学ぶ。また自分に合った画材を探求する。取材からレポート制作までを一貫して学び、イラストレーションを応用したニーズや伝達方法を学ぶ。	1前期	34	2				○			○	○
	○		専攻イラストレーションⅢ	イラストレーションを制作するために必要な画材スキルを学ぶ。また自分に合った画材を探求する。様々なビジュアルを主とするコミュニケーションの表現方法を知り、自身の表現の幅を広げていく。	1前期	34	2				○			○	○
合計					9科目	510単位時間(						30単位)			

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程総合デザイン学科イラスト・キャラクター専攻) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			視覚伝達論	バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションの有り方の違いなど、ビジュアルを主とするコミュニケーションの方法論を学ぶ。	1後期	32	2	○			○	○			
○			ソーシャルコミュニケーション	社会人としての基本的なマナーやビジネス文書を学習。ビジネス能力検定のための学習も行う。	1後期	32	2	○			○	○			
○			ベーシックデザイン	デザインに必要な平面・空間構成の方法論を学び、あらゆるデザインワークに対応できるように基礎を学習する。	1後期	64	4			○	○		○		
○			基礎デッサン	デッサンの基礎の習得から構図やプロポーションなど、物の見方・影の捉え方について学ぶ。	1後期	32	2			○	○			○	
○			デジタルカラープランニング	色彩の基本的演習をデジタルで行う。前期のアナログ教育を元に後期のデジタルカラープランニングをPC使用で行う。	1後期	32	2			○	○		○	○	
○			基礎DTP	イラストレーターやフォトショップのソフトを使用し、デザイナーに必要な基礎知識や技術を身につける。	1後期	64	4			○	○		○		
	○		専攻イラストレーションⅠ	基礎技術の習得を中心とし、目的意識の向上を図る。強調と省略・情報収集・探求心の育成。	1後期	32	2			○			○	○	○
	○		専攻イラストレーションⅡ	イラストレーションを制作するために必要な画材スキルを学ぶ。また自分に合った画材を探求する。取材からルポ制作までを一貫して学び、イラストレーションを応用したニーズや伝達方法を学ぶ。	1後期	32	2			○			○	○	○
	○		専攻イラストレーションⅢ	イラストレーションを制作するために必要な画材スキルを学ぶ。また自分に合った画材を探求する。取材からルポ制作までを一貫して学び、イラストレーションを応用したニーズや伝達方法を学ぶ。	1後期	32	2			○			○	○	○
	○		デジタルイラスト	デジタルイラストレーションを制作するために必要なPCソフトスキルを学ぶ。また、デジタルイラストのニーズや各ニーズに合わせた伝達方法を学ぶ。	1後期	64	4			○	○			○	
	○		基礎デッサンⅡ	デザインの基礎となる物の観方と描き方を身に付ける。構図やプロポーション、材質の表現、物の見方・影の捉え方を習得し、デッサンの基礎的能力を高める。	1後期	32	2			○	○			○	
合計				11科目			448	単位時間(			28		単位)		

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程総合デザイン学科イラスト・キャラクター専攻) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			デザイン論	世の中にあるモノには、その源流となるものがある。デザイン的な視点を養い、制作者側の視点に立つことで見える意図や方法を知る。	2前期	34	2	○			○	○			
○			就職対策	実践に即して、企業訪問、面接試験、就職用ポートフォリオ作成の指導を行う。	2前期	34	2	○			○	○			
○			ビジュアルデザイン	視覚的表現の中で、思いをイラスト化したり、マーク化や数値を分かり易くグラフ化し、より分かり易い視覚化を学ぶ。	2前期	102	6				○	○	○		
○			DTP I	実践作業を中心にデザイナーとしての、より高いスキルと意識を身につける。イラストレーターやフォトショップの復習・応用。	2前期	34	2				○	○	○	○	
○			DTP II	実践作業を中心にデザイナーとしての、より高いスキルと意識を身につける。イラストレーターやフォトショップの復習・応用と、Web制作スキルの習得。	2前期	68	4				○	○	○	○	
○			スキルアップ	表現技術や表現方法を反復し、作品をより良く見せるためのプレゼンテーションを学ぶ。	2前期	34	2				○	○		○	
○			基礎WEB	実践作業を中心にデザイナーとしての、より高いスキルと意識を身につける。様々なビジュアルを主とするコミュニケーションの表現方法を知り、自身の表現の幅を広げていく。	2前期	34	2				○	○		○	
	○		専攻イラストレーションⅣ	実務レベルのプロフェッショナルとしての作品制作、アイデアスケッチから制作仕上げまでを学ぶ。様々なビジュアルを主とするコミュニケーションの表現方法を知り、自身の表現の幅を広げていく。	2前期	68	4				○	○	○	○	○
	○		専攻イラストレーションⅤ	イラストレーションを通して、設定を元にした世界観の構築を主とし、柔軟な発想からの様々なビジュアルを主とするコミュニケーションの表現方法を知り、自身の表現の幅を広げていく。	2前期	34	2				○	○	○	○	○
	○		専攻イラストレーションⅥ	自ら使用する画材などを選びつつ、その作業工程の管理を行い、表現においては豊かな発想で制作するようにする。	2前期	34	2				○	○	○	○	○
	○		デジタルイラストⅡ	卒業制作に向けてアイデアを実現する方法を学ぶことを重点に様々なビジュアルを主とするコミュニケーションの表現方法を知り、自身の表現の幅を広げていく。	2前期	34	2				○	○	○	○	○
合計				11科目	510単位時間( 30単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程総合デザイン学科イラスト・キャラクター専攻) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			卒業制作・企画	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	64	4			○	○			○	○
○			卒業制作・制作	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	96	6			○	○			○	○
○			卒業制作・演習	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	160	10			○	○			○	○
○			卒業制作・作品	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	96	6			○	○			○	○
○			卒業制作・スキルアップ	卒業制作の作品作りだけではなく、就職用のポートフォリオを充実させ、何時でも就職活動出来るよに作品制作。	2後期	32	2			○	○			○	○
合計				5科目		448単位時間(					28単位)				

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式4)

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和4年10月1日※1  
(前回公表年月日:令和3年10月1日)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																				
専門学校札幌デザイナー学院	平成1年12月28日	澁谷 俊彦	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-272-2800																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																				
学校法人北海道安達学園	平成1年11月28日	安達 保敏	〒060-0001 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-205-7600																				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																			
文化・教養	文化教養専門課程	総合デザイン学科インテリア空間ディスプレイ専攻	○	—																			
学科の目的	インテリア分野におけるプロとして必要な、基礎と実務知識を習得することを目的とし、旬の知識や情報を常に授業に取り入れ習得する。インテリア計画の基本やインテリアエレメント(家具、照明器具、カーテンなど)の商品知識を学び、機能と空間の関わり方など課題を通して実践し、現場で即戦力となりうる人材を育成する。																						
認定年月日	平成26年3月31日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
2年	昼	1,700	366	0	1,550	0	0																
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																		
360人の内数	28人	0人	3人	4人	7人																		
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各年度(1/2)、各期(前/後)に期末テスト、レポート課題を実施。また2年間の集大成として卒業論文、卒業制作を実施。出席日数、授業態度を平常点(最大15点)として加味し点数化し、各科目ごとに5段階A(100～80)・B(79～70)・C(69～50)・D(単位認定)・E(49～)の成績評価を行う																			
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏季:7月下旬から8月下旬まで ■冬季:12月下旬から1月下旬まで ■学年末:2月下旬から4月初旬まで		卒業・進級条件	・出席率90%以上 ・単位修得率85%以上 ・卒業制作の完成 ・学費の完納																			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任による生活指導及び保護者との連携強化を行う		課外活動	■課外活動の種類  ■サークル活動: 無																			
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) 石栗写真館、札幌住宅流通、栗原工業、アーキテックプランニング、インツキ 他 ■就職指導内容 就職対策、ホームルームの授業などで、就職に対する意識づけ、業界就職に対する正しい認識を指導(接遇マナー演習、面接練習、業界研究会、履歴書の書き方指導等) ■卒業者数 9人 ■就職希望者数 9人 ■就職者数 9人 ■就職率 100% ■卒業者に占める就職者の割合 : 100% ■その他 ・進学者数: 0人  (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"><thead><tr><th>資格・検定名</th><th>種</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr></thead><tbody><tr><td>リビングスタイリスト</td><td>③</td><td>9</td><td>9</td></tr><tr><td>建築CAD</td><td>③</td><td>9</td><td>6</td></tr><tr><td>ビジネス検定</td><td>③</td><td>7</td><td>7</td></tr></tbody></table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	リビングスタイリスト	③	9	9	建築CAD	③	9	6	ビジネス検定	③	7	7
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																				
リビングスタイリスト	③	9	9																				
建築CAD	③	9	6																				
ビジネス検定	③	7	7																				
中途退学の現状	■中途退学者 3名 令和3年4月1日時点において、在学者22名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者19名(令和4年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 学習意欲低下、健康上の理由、進路変更、方向性の違い、家庭の事情、人間関係 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任による個別面談の実施、教職員同士の情報共有、カウンセリング、転専攻、転学科の実施。学科担当教員が、日頃より学生とコミュニケーションを密にする。		■中退率 13.6%																				

経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有</p> <p>※有の場合、制度内容を記入 奨学生制度(試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生)、AO特待生入学、縁故優遇制度、語学優遇制度、在校生表彰制度</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 給付対象</p> <p>※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)</p>
当該学科のホームページURL	<p><a href="https://www.sdg.ac.jp/isd/">https://www.sdg.ac.jp/isd/</a></p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。



1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

総合デザイン学科インテリア空間ディスプレイ専攻 教育内容

①ベーシックデザイン、デッサン、ドローイング、基礎CADは必修科目で、基礎力を育成

②専攻授業で即戦力を養成するカリキュラム

③視覚伝達論やインテリア学で、幅広い教養科目

④就職に向け、ソーシャルコミュニケーションや就職対策でビジネス能力検定やマナー、面接などを学ぶ

上記の教育内容を企業等との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能等を反映するため、企業等の意見を十分に活かし改善等計って行く。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会の位置づけとして、当委員会の審議を通して、業界が求める人材、および専門的スキルを持った社会人教育環境実現の機能を持つものとする。その審議を通じ、効果的に専門教育に反映できるよう業界の第一線に身を置く学校外委員の客観的見地を有効かつ最大限に活用することで、最新の業界情勢を見据えたカリキュラム(授業内容・インターンシップ・就職セミナー)を構築できるよう、積極的意見を交換するデザイン業界と教育現場を結ぶ委員会として機能するカンファレンスである。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	①
岡田 善敬	札幌大同印刷株式会社	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	③
増永 佳奈	インテリアコーディネーター協会 会長	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	③
木下 直樹	KIC株式会社 部長	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	③
澁谷 俊彦	専門学校札幌デザイナー学院	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	
立岡 好人	専門学校札幌デザイナー学院	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	
木村 馨	専門学校札幌デザイナー学院	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	
東出 圭介	専門学校札幌デザイナー学院	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	
高島 幸直	専門学校札幌デザイナー学院	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間開催数:年2回 開催予定時期:毎年9月 12月

(開催日時(実績))

令和3年度 第一回 令和 4年 1月 27日 16時 30分～ 17時 30分

令和3年度 第二回 令和 4年 3月 4日 11時 00分～ 12時 00分

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

インテリア学科は、高いプレゼンテーション能力を求められる。よって学科・専攻を超えたカリキュラム編成が望ましいとの意見を受け、イラストレーターやフォトショップなどCG系授業をビジュアルデザイン学科の教員が実務を想定した授業を行っている。また、プレゼンテーションを効果的に実践するために動画を活用しての表現を取り入れる。SNSの普及で誰でも簡単にコーディネートができる時代にプロとしてオリジナリティや将来を見据えたデザイン、コーディネートの構築ができる人材を育てる。社会性の教育が必要との指摘を受け、学生の接客・マナー向上に努めた。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

課題制作・打ち合わせ・発表を通し実作業の経験を繰り返し習得させる。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

専攻授業を設け、専攻学科の学生全員が受講。現役で活躍する経験豊富なコーディネーター・デザイナーを講師陣とし、旬の知識や情報を常に授業取り入れ活かし、授業の中で、実務での様子や経験したことを直接学ぶ。年4回の講師会で、カリキュラム・授業内容、進め方を確認し、問題があれば改善する。また、年2回の作品審査会を行い、学生への評価・意見を頂戴することとする。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
インテリアデザインⅠ・Ⅱ	店舗デザインの基本となる商業空間の機能や役割を学び、商業施設デザイン課題制作を通して、プランニングをまとめる力を養う。	米川建築設計事務所 主宰 米川 雅喜
インテリアコーディネーターⅠ・Ⅱ	専用住宅の単位空間を中心に機能的な寸法や計画の方法など住宅を計画する上での基礎知識を習得する。	(株)アトリエ樹 取締役 金山 美保子
モデリング	主にステレンボードを使用しての模型制作。基礎的な道具の使用方法や素材についての知識、制作の技術を学ぶ。	造形作家 穴戸 輝彦

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員規則の教員研修に基づき、教員は実践的かつ専門的な知識・技術・技能及び指導力の修得・向上を図ることを目的とし、年2回以上の研修計画を策定し、校外で必要な研修機会を設けるものとする。  
年2回、定期的に学科毎に開催する業界研修会において関連企業の方を招き、情報収集や情報共有を行い業界の最新情報を把握することで、教員の資質向上へ活かしている。また指導力修得、向上のための各種研修会に参加するものとする。

(2)研修等の実績(令和3年度)

①専攻分野における実務に関する研修等(研修名、日程、連携企業名、内容を記載)

DIKO電機ショールーム ライティングコア札幌、照明勉強会 (2021/10/13)  
パナソニック リビングショールーム札幌 見学 (2021/11/10)

②指導力の修得・向上のための研修等(研修名、日程、連携企業名、内容を記載)

北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会主催研修会 前田賢次氏「いま求められている・求めたい教育教育の間で」(2021/8/3)

北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会主催研修会 神田裕子氏「この子ちょっと変わっている・・と感じた時の支援法」(2021/12/2)

(3)研修等の計画(令和4年度)

①専攻分野における実務に関する研修等(研修名、日程、連携企業名、内容を記載)

DIKO電機ショールーム ライティングコア札幌、照明勉強会(2022/11/9)  
パナソニック札幌ショールーム 住設セミナー及びショールーム見学予定  
札幌ファニッシング ショールーム見学予定

②指導力の修得・向上のための研修等(研修名、日程、連携企業名、内容を記載)

北海道私立専修学校各種学校連合会主催 教員研修会(2022.8、12)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に関係の深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特色は適正か 1-3学校の将来構想を抱いているか
(2)学校運営	2-1運営方針は定められているか 2-2事業計画は定められているか 2-3運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5意思決定システムは確立されているか 2-6情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導體制はあるか
(4)学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られている 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	7-1学生募集活動は、適正に行われているか 7-2学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	8-1中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-2予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-3財務について会計監査が適正に行われているか 8-4財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	9-1法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	11-1グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会実施の意見として、自己評価に基づき特に学修成果、学生支援を重点的に意識をしながら教育活動を実施する。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	企業等委員
松倉 大樹	株式会社きしだ Studio BACU	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	企業等委員
山田 芳之	株式会社宿屋ネットワーク	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	企業等委員
一條 實	・株式会社カメラのカネミチ	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	企業等委員
本間 裕也	ジョイフルエーカー	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	企業等委員 企業等委員 姉妹校卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(公表方法:ホームページ 公表時期:令和4年7月)

[https://www.sdg.ac.jp/top/wp-content/uploads/2022/07/2021SDG\\_SelfAssessment\\_SchoolOfficialEvaluation.pdf](https://www.sdg.ac.jp/top/wp-content/uploads/2022/07/2021SDG_SelfAssessment_SchoolOfficialEvaluation.pdf)

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
(2) 各学科等の教育	・定員 ・各学科 教育理念・教育方針・教育内容(カリキュラム・目指す資格・行事)
(3) 教職員	・教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介(インターンシップ等) ・就職支援の取り組み(キャリアセンター)
(5) 様々な教育活動・教育環境	・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
(6) 学生の生活支援	・学生生活サポート
(7) 学生納付金・修学支援	・学費 ・学費サポートシステム
(8) 学校の財務	・消費収支計算書
(9) 学校評価	・自己点検自己評価 ・学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	・国際交流・連携
(11) その他	・災害時非常時緊急時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法:ホームページ

<https://www.sdg.ac.jp/information/>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 総合デザイン学科インテリ専攻) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ソーシャル・コミュニケーション	社会人としての基本的なマナーやビジネス文書を学習。ビジネス能力検定のための学習も行う。	1前期	34	2	○			○		○		
○			インテリア計画Ⅰ	単位空間を中心に機能的な寸法や計画の方法などインテリアを計画する上での基礎知識を学ぶ。	1前期	34	2	○			○		○		
○			インテリア計画Ⅱ	インテリアに関する商品・材料の基本的な知識と商品知識。そして、機能と空間の関わり方など基礎事項を項目ごとに学ぶ。	1前期	68	4	○			○		○		
○			リビングコミュニケーション	リビングスタイリストとして、インテリアをはじめとする住生活商品を買求める消費者に商品の魅力を説明出来、適切な提案を行うことができるスキルを学ぶ。	1前期	34	2	○			○			○	○
○			基礎ドローイング	製図の基本や描き方・ルールを身に着ける。立体を平面上で説明するための製図、及びアイソメトリック図法の技法を手書きを中心に学習する。作品制作を通して、機能的な寸法や計画の方法など座学の授業で学んだことを実践する。	1前期	68	4			○	○		○		
○			視覚伝達論	視覚的な表現で伝達することを目的とした技術・方法を学ぶ。図面を元に、1消点透視図法・・・測線法を使用し、インテリアパースを作成。ただパースを書くのではなく空間のデザイン、コーディネートを考え、オリジナルの家具や市販の家具を立体に起こす練習をする。後期はPCを使ったVR表現など新しい伝達方法を学ぶ。	1前期	34	2			○	○		○		
○			基礎CG	デザインに必要なアプリケーションの基礎を学ぶ。CADソフトを使用し、設計製図を行う。まずは、CADの操作を覚え、設計条件を読み取り、プランニングをまとめ図面化する力をつけ、CADの操作技術・表現技法を確実なものとし、即戦力としての能力を身につける。	1前期	68	4			○	○		○		
○			ベーシックデザイン	造形の基本となる形態、造形美の原理などデザインの基本的理論・定理を建築やインテリアに照らし合わせ学び、演習を通して理解すると共にイメージ・発想力を強化し、デザインの基礎的力、美的感性を鍛える。	1前期	34	2			○	○		○	○	○
○			インテリアデザインⅠ	店舗デザインの基本となる商業空間の機能や役割を学び、商業施設デザイン課題制作を通して、プランニングをまとめる力を養う。	1前期	68	4			○	○			○	○
○			インテリアコーディネートⅠ	専用住宅の単位空間を中心に機能的な寸法や計画の方法など住宅を計画する上での基礎知識を習得する。	1前期	68	4			○	○			○	○
合計				10科目	510単位時間( 30単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 総合デザイン学科インテリア専攻) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ソーシャル・コミュニケーション	社会人としての基本的なマナーやビジネス文書を学習。ビジネス能力検定のための学習も行う。	1後期	32	2	○			○	○			
○			インテリア計画Ⅰ	単位空間を中心に機能的な寸法や計画の方法などインテリアを計画する上での基礎知識を学ぶ。	1後期	32	2	○			○	○			
○			インテリア計画Ⅱ	インテリアに関する商品・材料の基本的な知識と商品知識。そして、機能と空間の関わり方など基礎事項を項目ごとに学ぶ。	1後期	32	2	○			○	○			
○			カラースキム	各分野に広く活用できる「理論に裏付けられた色彩の基本」を学ぶ。	1後期	32	2	○			○		○	○	
○			基礎ドローイング	製図の基本や描き方・ルールを身につける。立体を平面で説明するための製図、及びアイソメトリック図法の技法を手書きを中心に学習する。作品制作を通して、機能的な寸法や計画の方法など座学の授業で学んだことを実践する。	1後期	32	2				○	○	○		
○			視覚伝達論	視覚的な表現で伝えることを目的とした技術・方法を学ぶ。図面を元に、1消点透視図法・・・測線法を使用し、インテリアパースを作成。ただパースを書くのではなく空間のデザイン、コーディネートを考え、オリジナルの家具や市販の家具を立体に起こす練習をする。後期はPCを使ったVR表現など新しい伝達方法を学ぶ。	1後期	32	2				○	○	○		
○			プレゼンテーションテクニックⅠ	課題作成を通して、イメージした空間を人に伝達するための表現技術を身につける。	1後期	32	2				○	○	○		
○			ベーシックデザイン	造形の基本となる形態、造形美の原理などデザインの基本的理論・定理を建築やインテリアに照らし合わせ学び、演習を通して理解すると共にイメージ・発想力を強化し、デザインの基礎的力、美的感性を鍛える。	1後期	32	2				○	○		○	○
○			基礎CG	デザインに必要なアプリケーションの基礎を学ぶ。CADソフトを使用し、設計製図を行う。まずは、CADの操作を覚え、設計条件を読み取り、プランニングをまとめ図面化する力をつけ、CADの操作技術・表現技法を確実なものとし、即戦力としての能力を身につける。	1後期	64	4				○	○		○	
○			インテリアデザインⅠ	店舗デザインの基本となる商業空間の機能や役割を学び、商業施設デザイン課題制作を通して、プランニングをまとめる力を養う。	1後期	64	4				○	○		○	○
○			インテリアコーディネートⅠ	専用住宅の単位空間を中心に機能的な寸法や計画の方法など住宅を計画する上での基礎知識を習得する。	1後期	64	4				○	○		○	○
合計				10科目		448単位時間(			28単位)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(文化教養専門課程 総合デザイン学科インテリ専攻) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			就職対策	実践に即して、企業訪問、面接試験、就職用ポートフォリオ作成の指導を行う。	2前期	34	2	○			○		○		
○			デザイン論	インテリアデザインの設計思想について(デザインの企画・発想から、デザインの具現化、伝達にいたるまで)必要な基礎的項目を学ぶ。	2前期	34	2	○		△	○		○		
○			応用CG	3D-CADの基本的な操作技術・表現技法を学び、即戦力としての能力を身に付ける。	2前期	68	4			○	○		○		
○			プレゼンテーションテクニックⅡ	インテリア業界で必要とされている、イラストレーター・フォトショップの基礎から応用を学び、プレゼンテーションに役立てる。	2前期	68	4			○	○		○		
○			モデリング	主にスチレンボードを使用しての模型制作。基礎的な道具の使用法や素材についての知識、制作の技術を学ぶ。	2前期	68	4			○	○			○	○
○			空間計画	課題作成を通して、イメージした空間を人に伝達するための作画・表現技術を身につける。	2前期	102	67			○	○		○		
○			インテリアデザインⅡ	図面での表現を基本としながら、模型やパース表現でのプレゼンテーション手法や構成、表現力を養う。	2前期	68	4			○	○			○	○
○			インテリアコーディネーターⅡ	インテリアの各エレメントを適切に選択し、効果的にインテリアに生かすことと、マンションや戸建住宅のリフォームから使いやすさなどを提案していく。	2前期	68	4			○	○			○	○
合計				8科目		510単位時間( 30単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。



## 授業科目等の概要

(文化教養専門課程 総合デザイン学科インテリ専攻) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			卒業制作・企画	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	64	4			○	○		○	△	○
○			卒業制作・制作	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	96	6			○	○		○	△	○
○			卒業制作・演習	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	160	10			○	○		○	△	○
○			卒業制作・作品	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	96	4			○	○		○	△	○
○			卒業制作・スキルアップ	卒業制作の作品作りだけではなく、就職用のポートフォリオを充実させ、何時でも就職活動出来るよに作品制作。	2後期	32	2			○	○		○	△	
合計					9科目	448単位時間(					28単位)				

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式4)

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和4年10月1日※1  
(前回公表年月日:令和3年10月1日)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																				
専門学校札幌デザイナー学院	平成1年12月28日	澁谷 俊彦	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-272-2800																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																				
学校法人北海道安達学園	平成1年11月28日	安達 保敏	〒060-0001 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-205-7600																				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																			
文化・教養	文化教養専門課程	総合デザイン学科ファッションメディア専攻	○	—																			
学科の目的	ブランド企画の方法、パターン、縫製、販促方法、販売までトータルで学び現場で即戦力となる人材を育成する。																						
認定年月日	平成26年3月31日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
2年	昼	1,700	266	0	1,650	0	0																
1,916時間																							
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																		
360人の内数	17人	1人	2人	6人	8人																		
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各年度(1/2)、各期(前/後)に期末テスト、レポート課題を実施。また2年間の集大成として卒業論文、卒業制作を実施。出席日数、授業態度を平常点(最大15点)として加味し点数化し、各科目ごとに5段階A(100～80)・B(79～70)・C(69～50)・D(単位認定)・E(49～)の成績評価を行う																			
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏季:7月下旬から8月下旬まで ■冬季:12月下旬から1月下旬まで ■学年末:2月下旬から4月初旬まで		卒業・進級条件	・出席率90%以上 ・単位修得率85%以上 ・卒業制作の完成 ・学費の完納																			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任による生活指導及び保護者との連携強化を行う		課外活動	■課外活動の種類  ■サークル活動: 無																			
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) Xgirl、パロックジャパンリミテッド 他  ■就職指導内容 就職対策、ホームルームの授業などで、就職に対する意識づけ、業界就職に対する正しい認識を指導(接遇マナー演習、面接練習、業界研究会、履歴書の書き方指導等) ■卒業生数 7 人 ■就職希望者数 5 人 ■就職者数 5 人 ■就職率 100 % ■卒業生に占める就職者の割合 : 71 % ■その他 ・進学者数: 2人  (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"><thead><tr><th>資格・検定名</th><th>種</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr></thead><tbody><tr><td>ファッションビジネス能力検定</td><td>③</td><td>8</td><td>ファッションビジネス知識合格 5 ファッション造形知識合格 2</td></tr><tr><td>色彩検定</td><td>③</td><td>8</td><td>2</td></tr><tr><td>ビジネス能力検定</td><td>③</td><td>6</td><td>4</td></tr></tbody></table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)  ■自由記述欄				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ファッションビジネス能力検定	③	8	ファッションビジネス知識合格 5 ファッション造形知識合格 2	色彩検定	③	8	2	ビジネス能力検定	③	6	4
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																				
ファッションビジネス能力検定	③	8	ファッションビジネス知識合格 5 ファッション造形知識合格 2																				
色彩検定	③	8	2																				
ビジネス能力検定	③	6	4																				
中途退学の現状	■中途退学者 5名 令和3年4月1日時点において、在学者19名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者14名(令和4年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 学習意欲低下、健康上の理由、進路変更、方向性の違い、家庭の事情、人間関係  ■中退防止・中退者支援のための取組 担任による個別面談の実施、教職員同士の情報共有、カウンセリング、転専攻、転学科の実施。学科担当教員が、日頃より学生とコミュニケーションを密にする。		中退率	26.3%																			

経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有</p> <p>※有の場合、制度内容を記入 奨学生制度(試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生)、AO特待生入学、縁故優遇制度、語学優遇制度、在校生表彰制度</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 給付対象外</p> <p>※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)</p>
当該学科のホームページURL	<p><a href="https://www.sdg.ac.jp/fa/">https://www.sdg.ac.jp/fa/</a></p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

総合デザイン学科(旧ファッション学科)教育内容

- ① ベーシックデザイン、基礎デッサン、ファッション造形、基礎CGで、基礎力を育成
  - ② ファッションデザインⅡで最先端のデザイン技術の習得
  - ③ ファッションビジネスⅡで現場に必要な技術を習得し即戦力となる人材の育成
  - ④ 視覚伝達論やファッションビジネスⅠで、幅広い教養科目
  - ⑤ 就職に向け、ソーシャルコミュニケーションや就職対策でビジネス能力検定やマナー、面接などを学ぶ
- 上記の教育内容を企業等との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能等を反映するため、企業等の意見を十分に活かし改善等計って行く。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会の位置づけとして、当委員会の審議を通して、業界が求める人材、および専門的スキルを持った社会人教育環境実現の機能を持つものとする。その審議を通じ、効果的に専門教育に反映できるよう業界の第一線に身を置く学校外委員の客観的見地を有効かつ最大限に活用することで、最新の業界情勢を見据えたカリキュラム(授業内容・インターンシップ・就職セミナー)を構築できるよう、積極的意見を交換するデザイン業界と教育現場を結ぶ委員会として機能するカンファレンスである。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	①
岡田 善敬	札幌大同印刷株式会社	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	③
増永 佳奈	インテリアコーディネーター協会 会長	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	③
木下 直樹	KIC株式会社 部長	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	③
澁谷 俊彦	専門学校札幌デザイナー学院	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	
立岡 好人	専門学校札幌デザイナー学院	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	
木村 馨	専門学校札幌デザイナー学院	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	
東出 圭介	専門学校札幌デザイナー学院	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	
高島 幸直	専門学校札幌デザイナー学院	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間開催数: 年2回 開催予定時期: 毎年9月 12月

(開催日時(実績))

令和3年度 第一回 令和 4年 1月 27日 16時 30分～ 17時 30分  
 令和3年度 第二回 令和 4年 3月 4日 11時 00分～ 12時 00分

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

アパレルの業界動向等のご意見を頂戴し、カリキュラムに反映させるなどの改善を行った。  
 コロナ禍でコミュニケーション能力不足が懸念される為、社会との接点を増やす試みが欲しい。  
 コラボ授業、チーム制作、企業コラボ等を積極的に行う。  
 コロナでの業界の変化を把握し、授業展開を考える必要性から  
 現状のカリキュラムと業界が求めている知識、技術の整合性を探る

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

課題制作・打ち合わせ・発表を通し実作業の経験を繰り返し習得させる。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

- ・カリキュラム・授業内容の編成会議を年4回、講師会という形で行い授業内容の改善に活かしている。
- ・年2回の作品審査会を行い、学生への評価を頂戴することとする。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ベーシックデザイン	デザイン作品制作の基礎となる技術、知識を学ぶ。ミシン、手縫いの基礎と平面作図によるシャツ、ブラウス、パンツ等の製図と縫製。	フリーデザイナー 安楽 恵子
基礎デッサン	デザインの基礎となる物の観方と描き方を身に付ける。デザインするために必要な描画力を習得し、ファッションデザイン画の基礎を学ぶ。	フリーデザイナー 安楽 恵子
ファッション造形	グッズの制作を基本としながらも、ファッション業界の現在や、即実践できるスキルや知識を習得することを目的としたマルチな内容とする。	ファッションデザイナー 高橋 拓也
基礎CG	デザインに必要なアプリケーションの基礎を学ぶ。イラストレーター、フォトショップの基本的な使い方から応用、Web制作。	アートディレクター 北村 千鶴

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員規則の教員研修に基づき、教員は実践的かつ専門的な知識・技術・技能及び指導力の修得・向上を図ることを目的とし、年2回以上の研修計画を策定し、校外で必要な研修機会を設けるものとする。  
年2回、定期的に学科毎に開催する業界研修会において関連企業の方を招き、情報収集や情報共有を行い業界の最新情報を把握することで、教員の資質向上へ活かしている。また指導力修得、向上のための各種研修会に参加するものとする。

(2)研修等の実績(令和3年度)

①専攻分野における実務に関する研修等(研修名、日程、連携企業名、内容を記載)

- ・株式会社アンドヴォーグ 学内セミナー・説明会参加(2021/6/4)
- ・psychic VR lab ミーティング参加(2021/7/8、2021/11/11)

②指導力の修得・向上のための研修等(研修名、日程、連携企業名、内容を記載)

北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会主催研修会 前田賢次氏「いま求められている・求めたい教育教育の間で」(2021/8/3)

北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会主催研修会 神田裕子氏「この子ちょっと変わっている・・と感じた時の支援法」(2021/12/2)

(3)研修等の計画(令和4年度)

①専攻分野における実務に関する研修等(研修名、日程、連携企業名、内容を記載)

- ファッションデザイナー中田龍三様 セミナー参加 10月予定
- ファッションXRセミナー参加 11月

②指導力の修得・向上のための研修等(研修名、日程、連携企業名、内容を記載)

北海道私立専修学校各種学校連合会主催教員研修 8月 12月予定

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に関係の深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特色は適正か 1-3学校の将来構想を抱いているか
(2)学校運営	2-1運営方針は定められているか 2-2事業計画は定められているか 2-3運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5意思決定システムは確立されているか 2-6情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導體制はあるか
(4)学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られている 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	7-1学生募集活動は、適正に行われているか 7-2学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	8-1中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-2予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-3財務について会計監査が適正に行われているか 8-4財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	9-1法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	11-1グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会実施の意見として、自己評価に基づき特に学修成果、学生支援を重点的に意識をしながら教育活動を実施する。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	企業等委員
松倉 大樹	株式会社きしだ Studio BACU	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	企業等委員
山田 芳之	株式会社宿屋ネットワーク	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	企業等委員
一條 實	・株式会社カメラのカネミチ	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	企業等委員
本間 裕也	ジョイフルエーカー	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	企業等委員 企業等委員 姉妹校卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(公表方法:ホームページ 公表時期:令和4年7月)

[https://www.sdg.ac.jp/top/wp-content/uploads/2022/07/2021SDG\\_SelfAssessment\\_SchoolOfficialEvaluation.pdf](https://www.sdg.ac.jp/top/wp-content/uploads/2022/07/2021SDG_SelfAssessment_SchoolOfficialEvaluation.pdf)

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
(2) 各学科等の教育	・定員 ・各学科 教育理念・教育方針・教育内容(カリキュラム・目指す資格・行事)
(3) 教職員	・教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介(インターンシップ等) ・就職支援の取り組み(キャリアセンター)
(5) 様々な教育活動・教育環境	・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
(6) 学生の生活支援	・学生生活サポート
(7) 学生納付金・修学支援	・学費 ・学費サポートシステム
(8) 学校の財務	・消費収支計算書
(9) 学校評価	・自己点検自己評価 ・学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	・国際交流・連携
(11) その他	・災害時非常時緊急時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法:ホームページ

<https://www.sdg.ac.jp/information/>



授業科目等の概要

(文化教養専門課程総合デザイン学科ファッションメディア専攻) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			視覚伝達論	ノンバーバルコミュニケーションの考え方を学ぶ ファッションの近代史、様々なスタイルを研究しデザイン、スタイリングに活かす。	1前期	34	2	○			○		○		
○			ソーシャル・コミュニケーション	ビジネス能力検定3級の取得を通じて社会人としてのマナーを身に付ける。	1前期	34	2	○			○		○		
○			ファッションデザインⅠ	デザインの基礎知識、色彩検定3級対策	1前期	34	2			○	○			○	
○			基礎デッサン	デザインするために必要な描画力を習得し、ファッションデザイン画の基礎を学ぶ。	1前期	34	2			○	○			○ ○	
○			ベーシックデザイン	デザイン作品制作の基礎となる技術、知識を学ぶ。ミシン、手縫いの基礎と平面作図によるシャツ、ブラウス、パンツ等の製図と縫製。	1前期	102	6			○	○			○ ○	
○			ファッションデザインⅡ	3DCGを用いたファッションデザインの方法について学びバーチャル環境への移行を実現する。	1前期	68	4			○	○			○	
○			ファッションビジネスⅠ	ファッションビジネス能力検定3級の資格取得を目指すと共にファッション産業の仕組みや商品知識を身に付ける。	1前期	34	2	○			○		○		
○			基礎CG	デザインに必要なアプリケーションの基礎を学ぶ。イラストレーター、フォトショップの基本的な使い方から応用、Web制作。	1前期	68	4			○	○			○ ○	
○			ファッションビジネスⅡ	店舗運営に関わる知識、技術についてロールプレイングなどを通し実践的に学ぶ。	1前期	34	2			○	○		○		
○			ファッション造形	グッズの制作を基本としながらも、ファッション業界の現在や、即実践できるスキルや知識を習得することを目的としたマルチな内容とする。	1前期	68	4			○	○			○ ○	
○															
○															
合計				10 科目	510単位時間( 30単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程総合デザイン学科ファッションメディア専攻) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			視覚伝達論	ノンバーバルコミュニケーションの考え方を学ぶ ファッションの近代史、様々なスタイルを研究しデザイン、スタイリングに活かす。	1後期	32	2	○			○		○		
○			ソーシャル・コミュニケーション	ビジネス能力検定3級の取得を通じて社会人としてのマナーを身に付ける。	1後期	32	2	○			○		○		
○			ファッションデザインⅠ	デザインの基礎知識、色彩検定3級対策	1後期	32	2			○	○			○	
○			基礎デッサン	デザインの基礎となる物の観方と描き方を身に付ける。 デザインするために必要な描画力を習得し、ファッションデザイン画の基礎を学ぶ。	1後期	32	2			○	○			○	○
○			ベーシックデザイン	デザイン作品制作の基礎となる技術、知識を学ぶ。ミシン、手縫いの基礎と平面作図によるシャツ、ブラウス、パンツ等の製図と縫製。	1後期	96	6			○	○			○	○
○			ファッションデザインⅡ	3DCGを用いたファッションデザインの方法について学びバーチャル環境への移行を実現する。	1後期	32	2			○	○			○	
○			ファッションビジネスⅠ	ファッションビジネス能力検定3級の資格取得を目指すと共にファッション産業の仕組みや商品知識を身に付ける。	1後期	32	2	○			○		○		
○			基礎CG	デザインに必要なアプリケーションの基礎を学ぶ。イラストレーター、フォトショップの基本的な使い方から応用、Web制作。	1後期	64	4			○	○			○	○
○			ファッションビジネスⅡ	店舗運営に関わる知識、技術についてロールプレイングなどを通し実践的に学ぶ。	1後期	32	2			○	○		○		
○			ファッション造形	グッズの制作を基本としながらも、ファッション業界の現在や、即実践できるスキルや知識を習得することを目的としたマルチな内容とする。	1後期	64	4			○	○			○	○
○															
○															
合計				10 科目				448単位時間( 28 単位)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程総合デザイン学科ファッションメディア専攻) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			ファッションデザインⅡ	3 DCGを用いたファッションデザインの方法について学びバーチャル環境への移行を実現する。	2前期	102	6			○	○			○	○
○			就職対策	社会人になるための基礎知識を学ぶ。	2前期	34	2	○			○		○		
○			ベーシックデザイン	ファッションショーの衣装政策を通してデザインに適したパターンメイキングと縫製について学ぶ。	2前期	102	6			○	○			○	○
○			ファッションビジネスⅠ	現場で必要となる計数の理解から予算計画、品ぞろえ計画、販促などマーチャンダイジングについて学ぶ。	2前期	34	2	○			○		○		
○			応用CG	1年次応用とWeb制作について学び、現在のファッション業界に適したファッション流通の方法を学ぶ。	2前期	102	6			○	○		○		○
○			ファッション造形	グッズの制作を中心としながらも、ファッション業界の現在や即実践できるスキルや知識を習得することを目的としたマルチな授業を行う。	2前期	68	4			○	○			○	○
○			ビジュアルデザイン	店舗運営に関わる知識、技術について実践的に学ぶ。	2前期	34	2			○	○		○		
○			デザイン論	ファッションショーに向けた衣装制作・企画を通しファッションビジネスの一連の流れを理解する。	2前期	34	2			○	○		○		
○					2前期										
合計															
					7	科目	510単位時間(							30	単位)

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程総合デザイン学科ファッションメディア専攻) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			卒業制作・企画	2年間の集大成としての作品制作。ブランドの企画から作品、販促物、Web制作などトータルでブランディングを行う。	2後期	96	6			○	○		○		
○			卒業制作・制作	2年間の集大成としての作品制作。ブランドの企画から作品、販促物、Web制作などトータルでブランディングを行う。	2後期	128	8			○	○			○ ○	
○			卒業制作・演習	2年間の集大成としての作品制作。ブランドの企画から作品、販促物、Web制作などトータルでブランディングを行う。	2後期	128	8			○	○			○ ○	
○			卒業制作・作品	2年間の集大成としての作品制作。ブランドの企画から作品、販促物、Web制作などトータルでブランディングを行う。	2後期	64	4			○	○		○		
○			卒業制作・スキルアップ	2年間の集大成としての作品制作。ブランドの企画から作品、販促物、Web制作などトータルでブランディングを行う。	2後期	32	2			○	○		○		
合計															
					5	科目	448単位時間(				28	単位)			

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式4)

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和4年10月1日※1  
(前回公表年月日:令和3年10月1日)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
専門学校札幌デザイン学院	平成1年12月28日	澁谷 俊彦	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-272-2800																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人北海道安達学園	平成1年11月28日	安達 保敏	〒060-0001 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-205-7600																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
文化・教養	文化教養専門課程	総合デザイン学科ゲームVR専攻	○	—																							
学科の目的	ベーシックデザイン、デッサン、カラープランニングなどで美術系素材コンテンツの要求・設計・作成の基礎を学び、ゲームエンジン(ユニティ)でのゲーム制作を繰り返しながら、ゲーム業界の各職種とユニティを利活用できる人材を育成する。																										
認定年月日	平成26年03月31日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	昼	1,700	166	0	1,750	0	0																				
1,916時間																											
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
360人の内数	14人	3人	7人	5人	12人																						
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各年度(1/2)、各期(前/後)に期末テスト、レポート課題を実施。また2年間の集大成として卒業論文、卒業制作を実施。出席日数、授業態度を平常点(最大15点)として加味し点数化し、各科目ごとに5段階A(100～80)・B(79～70)・C(69～50)・D(単位認定)・E(49～)の成績評価を行う																							
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏季:7月下旬から8月下旬まで ■冬季:12月下旬から1月下旬まで ■学年末:2月下旬から4月初旬まで		卒業・進級条件	・出席率90%以上 ・単位修得率85%以上 ・卒業制作の完成 ・学費の完納																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任による生活指導及び保護者との連携強化を行う		課外活動	■課外活動の種類 コンペなどへ自主的参加  ■サークル活動: 無																							
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) 水野染工場 他  ■就職指導内容 ホームルームの授業などで、就職に対する意識づけ、業界就職に対する正しい認識を指導(接遇マナー演習、面接練習、業界研究会、履歴書の書き方指導等) ■卒業生数 6 人 ■就職希望者数 3 人 ■就職者数 3 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 50 %  ■その他 ・進学者数: 〇人  (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"><thead><tr><th>資格・検定名</th><th>種</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr></thead><tbody><tr><td>Unity 認定資格</td><td>③</td><td>6</td><td>2</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)  ■自由記述欄				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	Unity 認定資格	③	6	2												
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
Unity 認定資格	③	6	2																								
中途退学の現状	■中途退学者 3名 令和3年4月1日時点において、在学者14名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者11名(令和4年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 学習意欲低下、健康上の理由、進路変更、方向性の違い、家庭の事情、人間関係  ■中退防止・中退者支援のための取組 担任による個別面談の実施、教職員同士の情報共有、カウンセリング、転専攻、転学科の実施。学科担当教員が、日頃より学生とコミュニケーションを密にする。		■中退率 21.4%																								

経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有</p> <p>※有の場合、制度内容を記入 奨学生制度(試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生)、AO特待生入学、縁故優遇制度、語学優遇制度、在校生表彰制度</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 給付対象外</p> <p>※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)</p>
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.sdg.ac.jp/g3d/">https://www.sdg.ac.jp/g3d/</a>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

総合デザイン学科教育内容

- ① ベーシックデザイン、基礎デッサン、カラープランニング、基礎CGは必修科目で、基礎力を育成
- ② 専攻授業で即戦力を養成するカリキュラム
- ③ 視覚伝達論やデザイン論で、幅広い教養科目
- ④ 就職に向け、ソーシャルコミュニケーションや就職対策でビジネス能力検定やマナー、面接などを学ぶ

上記の教育内容を企業等との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能等を反映するため、企業等の意見を十分に活かし改善等計って行く

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会の位置づけとして、当委員会の審議を通して、業界が求める人材、および専門的スキルを持った社会人教育環境実現の機能を持つものとする。その審議を通じ、効果的に専門教育に反映できるよう業界の第一線に身を置く学校外委員の客観的見地を有効かつ最大限に活用することで、最新の業界情勢を見据えたカリキュラム(授業内容・インターンシップ・就職セミナー)を構築できるよう、積極的意見を交換するデザイン業界と教育現場を結ぶ委員会として機能するカンファレンスである。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	①
岡田 善敬	札幌大同印刷株式会社	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	③
増永 佳奈	インテリアコーディネーター協会 会長	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	③
木下 直樹	KIC株式会社 部長	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	③
澁谷 俊彦	専門学校札幌デザイナー学院	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	
立岡 好人	専門学校札幌デザイナー学院	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	
木村 馨	専門学校札幌デザイナー学院	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	
東出 圭介	専門学校札幌デザイナー学院	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	
高島 幸直	専門学校札幌デザイナー学院	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間開催数:年2回 開催予定時期:毎年9月 12月

(開催日時(実績))

令和3年度 第一回 令和 4年 1月 27日 16時 30分～ 17時 30分  
 令和3年度 第二回 令和 4年 3月 4日 11時 00分～ 12時 00分

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

ゲーム業界の動向等のご意見を頂戴し、現状業界で不足されている職種が見えてきたことに伴い授業内でのカリキュラムとして職種別の積極的学習をとり行った。  
 加速度的なソフトウェアの進化に対応するべく、作業用機材の総入れ替えを実施。  
 実際の現場に基づいたチーム制作授業の導入を検討。  
 コロナでの業界の変化を把握し、授業展開を考える必要性から現状のカリキュラムと業界が求めている知識、技術の整合性を探る。



2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

課題制作・打ち合わせ・発表を通し実作業の経験を繰り返し習得させる。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

・カリキュラム・授業内容の編成会議を年4回、教育課程編成会議の意見を踏まえた上で、授業にかかわるすべての講師を参集し講師会という形で行い授業内容の改善に活かしている。  
・年2回の作品審査会を行い、個々の学生への評価を頂戴することとする。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
3D Artist	Unity上で使用する3DCGをBlenderにて制作する。人物を中心としたキャラクターの特性や構造を理解し、モデリングする力を身に着ける。	AMON WORKS 代表 宇田川 善将

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員規則の教員研修に基づき、教員は実践的かつ専門的な知識・技術・技能及び指導力の修得・向上を図ることを目的とし、年2回以上の研修計画を策定し、校外で必要な研修機会を設けるものとする。  
年2回、定期的に学科毎に開催する業界研修会において関連企業の方を招き、情報収集や情報共有を行い業界の最新情報を把握することで、教員の資質向上へ活かしている。また指導力修得、向上のための各種研修会に参加するものとする。

(2)研修等の実績(令和3年度)

①専攻分野における実務に関する研修等(研修名、日程、連携企業名、内容を記載)

サイバーコネクトワーククリエイティブセミナー(2021/10/13 株式会社サイバーコネクト ツー ゲームクリエイターを目指す方向けのクリエイティブセミナー)

②指導力の修得・向上のための研修等(研修名、日程、連携企業名、内容を記載)

北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会主催研修会 前田賢次氏「いま求められている・求めたい教育教育の間で」(2021/8/3)

北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会主催研修会 神田裕子氏「この子ちょっと変わっている・・と感じた時の支援法」(2021/12/2)

(3)研修等の計画(令和4年度)

①専攻分野における実務に関する研修等(研修名、日程、連携企業名、内容を記載)

セガ札幌スタジオ「学内企業説明会・作品添削会」(2022/5/25 株式会社セガ札幌スタジオ 職種別によるポートフォリオ添削会)

ハ・ン・ド「学内企業説明会・作品添削会」(2022/5/26 株式会社 ハ・ン・ド 職種別によるポートフォリオ添削会)

Unity特別講義(開催予定)

②指導力の修得・向上のための研修等(研修名、日程、連携企業名、内容を記載)

北海道私立専修学校各種学校連合会主催教員研修 8月 12月予定

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に関係の深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する

## (2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特色は適正か 1-3学校の将来構想を抱いているか
(2)学校運営	2-1運営方針は定められているか 2-2事業計画は定められているか 2-3運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5意思決定システムは確立されているか 2-6情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導體制はあるか
(4)学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られている 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	7-1学生募集活動は、適正に行われているか 7-2学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	8-1中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-2予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-3財務について会計監査が適正に行われているか 8-4財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	9-1法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	11-1グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会実施の意見として、自己評価に基づき特に学修成果、学生支援を重点的に意識をしながら教育活動を実施する。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	企業等委員
松倉 大樹	株式会社きしだ Studio BACU	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	企業等委員
山田 芳之	株式会社宿屋ネットワーク	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	企業等委員
一條 實	・株式会社カメラのカネミチ	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	企業等委員
本間 裕也	ジョイフルエーカー	令和4年4月1日～令和5年3月31日 1年更新	企業等委員 企業等委員 姉妹校卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(公表方法:ホームページ 公表時期:令和4年7月)

[https://www.sdg.ac.jp/top/wp-content/uploads/2022/07/2021SDG\\_SelfAssessment\\_SchoolOfficialEvaluation.pdf](https://www.sdg.ac.jp/top/wp-content/uploads/2022/07/2021SDG_SelfAssessment_SchoolOfficialEvaluation.pdf)

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
(2) 各学科等の教育	・定員 ・各学科 教育理念・教育方針・教育内容(カリキュラム・目指す資格・行事)
(3) 教職員	・教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介(インターンシップ等) ・就職支援の取り組み(キャリアセンター)
(5) 様々な教育活動・教育環境	・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
(6) 学生の生活支援	・学生生活サポート
(7) 学生納付金・修学支援	・学費 ・学費サポートシステム
(8) 学校の財務	・消費収支計算書
(9) 学校評価	・自己点検自己評価 ・学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	・国際交流・連携
(11) その他	・災害時非常時緊急時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法:ホームページ

<https://www.sdg.ac.jp/information/>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程総合デザイン学科ゲームVR専攻) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			視覚伝達論	バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションの有り方の違いなど、ビジュアルを主とするコミュニケーションの方法論を学ぶ。	1 前期	34	2	○			○		○		
○			ソーシャル・コミュニケーション	社会人としての基本的なマナーやビジネス文書を学習。ビジネス能力検定のための学習も行う。	1 前期	34	2	○			○		○		
○			基礎デッサン	デザインの基礎となる物の観方と描き方を身に付ける。デッサンの基礎の習得から構図やプロポーションなど、物の見方・影の捉え方について学ぶ。	1 前期	68	4			○	○		○		
○			基礎CG	キャラクターに必要な服飾の基本とMarverousDesignerの習得と応用。	1 前期	34	2			○	○		○		
○			ゲームエンジン基礎	ゲームエンジンであるUnity等(Unreal)の利用・活用方法を学ぶ。様々な世の中の文明・文化・環境・光と影データ(空、雲、地面、山、谷、気候、草木、建築、装飾、服飾、人体、動物、美術品、工芸品、車、飛行機、重機、剣盾銃銃器等)を各種データ形式で取り込み、1つの仮想世界(ゲーム)を構築する為の基礎を学ぶ。	1 前期	68	4			○	○		○		
○			3DArtist基礎	3Dモデリングに必要なZBrush操作の習得と応用。	1 前期	136	8			○	○			○	○
○			3DCG演習 I	mayaを使用したモデリングの基礎、それに付随する知識の習得。	1 前期	68	4			○	○		○		
○			3DCG演習 II	mayaを使用したアニメーション、リギングの基礎、それに付随する知識の習得。	1 前期	68	4			○	○		○		
合計					8科目	510単位時間(					30単位)				

卒業要件及び履修方法	授業期間等
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分期
	1学期の授業期間週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程総合デザイン学科ゲームVR専攻) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			視覚伝達論	バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションの有り方の違いなど、ビジュアルを主とするコミュニケーションの方法論を学ぶ。	1 後期	32	2	○			○		○		
○			ソーシャル・コミュニケーション	社会人としての基本的なマナーやビジネス文書を学習。ビジネス能力検定のための学習も行う。	1 後期	32	2	○			○		○		
○			基礎デッサン	デザインの基礎となる物の観方と描き方を身に付ける。デッサンの基礎の習得から構図やプロポーションなど、物の見方・影の捉え方について学ぶ。	1 後期	32	2			○	○		○		
○			基礎CG	キャラクターに必要な服飾の基本とMarverousDesignerの習得と応用。	1 後期	32	2			○	○		○		
○			ゲームエンジン基礎	ゲームエンジンであるUnity等(Unreal)の利用・活用方法を学ぶ。様々な世の中の文明・文化・環境・光と影データ(空、雲、地面、山、谷、気候、草木、建築、装飾、服飾、人体、動物、美術品、工芸品、車、飛行機、重機、剣盾銃銃器等)を各種データ形式で取り込み、1つの仮想世界(ゲーム)を構築する為の基礎を学ぶ。	1 後期	64	4			○	○		○		
○			3DArtist基礎	3Dモデリングに必要なZBrush操作の習得と応用。	1 後期	128	8			○	○			○	○
○			3DCG演習Ⅲ	mayaを使用した作品の制作、それに付随する知識の習得。	1 後期	128	8			○	○		○		
合計					7科目	4 4 8 単位時間(			2 8 単位)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1 学年の学期区分 期
	1 学期の授業期間 週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程総合デザイン学科ゲームVR専攻) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			就職対策	実践に即して、企業訪問、面接試験、就職用ポートフォリオ作成の指導を行う。	2前期	34	2	○			○		○		
○			ゲームエンジン応用	VR実機(HMD)を使った基礎実習や演習を通して、今後進化していくデバイスを扱う上での基礎を学び応用や研究に対応できるようにする。	2前期	68	4			○	○		○		
○			3DArtist応用	ZBrush操作の応用、ポートフォリオ用作品の制作。	2前期	136	8			○	○			○	○
○			応用CG	キャラクターに必要な服飾の基本とMarverousDesignerの習得と応用。	2前期	34	2			○	○		○		
○			基礎アソシエイト	unity基礎アソシエイト資格対策	2年前期	34	2			○	○		○		
○			3DCG実習	複数の3Dツールを使用し、作品制作に必要な知識を養う。希望企業・業種に向けた作品の制作(ポートフォリオの作成)。	2前期	204	12			○	○		○		
合計					6	科目	510単位時間( 30単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分期
	1学期の授業期間週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程総合デザイン学科ゲームVR専攻) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			卒業制作・企画	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	64	4			○	○		○		
○			卒業制作・制作	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	96	6			○	○		○	○	○
○			卒業制作・演習	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	160	10			○	○		○		
○			卒業制作・作品	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	96	6			○	○		○		
○			卒業制作・スキルアップ	卒業制作の作品作りだけではなく、就職用のポートフォリオを充実させ、何時でも就職活動出来るよに作品制作。	2後期	32	2			○	○		○		
合計					5	科目	4 4 8 単位時間(				2 8 単位)				

卒業要件及び履修方法	授業期間等
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分期
	1学期の授業期間週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。